



平成 26 年 2 月 14 日 (金)

報道関係者各位

日本ブラインドサッカー協会  
理事長 釜本美佐子

目をOFFにすると、発見がある  
ブラインドサッカー体験でコミュニケーション力をアップ  
大人向け体験プログラム『OFF TIME』をスタート

ブラインドサッカーとは、視覚障がい者のサッカーです。この競技では、目の見えない選手と、目の見える GK やガイド役との円滑なコミュニケーションが欠かせません。そして、健常者もアイマスクをして「見えないスポーツ」を体験すると、体感できる、気づけることが数多くあります。日本ブラインドサッカー協会は、学校向け体験授業『スポ育』で年間 300 件超、1 万 2000 人以上の子どもたちに障がい者スポーツで学べる機会を提供しています。また、企業研修として、コミュニケーション力、ダイバーシティ（多様性）対応力を上げるプログラムも開発、実績を積んできました。大人向けにも、2 年間で約 500 人を相手にテストイベントを重ね、このほど、18 歳以上の社会人や大学生が個人で申し込んで体験できる場を『OFF TIME』と名づけて、東京都新宿区内で定期的の実施することになりました。

今日、パソコンやスマートホンなどの機器に頼ったコミュニケーションが増えていきます。人間は情報の 8 割を視覚に頼っていると言われますが、その負担は増す一方です。反面、目の前にいる人に向き合うこと、相手の立場になって伝えることに難しさを感じている人も多いのではないのでしょうか。こうした背景を踏まえ、「ブラインドサッカーを通じて、視覚障がい者と健常者が当たり前前に混ざり合う社会を実現すること」を目指す私たちは、世の中に新しい価値を提供できると信じています。『OFF TIME』もその一環です。



どんなことをする？

視覚に障がいのあるブラインドサッカー選手も講師を務めますが、参加者はサッカーをプレーするわけではありません。ブラインドサッカーの要素である、アイマスクをした人と、していない人が互いに声を掛け合うことを中心に体験型ワークを行います。特に、アイマスクをしていない人は、アイマスクをして見えない状態である相手の立場に立って、いかにわかりやすく伝えられるのかがポイント。声を出すこと、聞くこと、そのタイミングが重要であること、また、自分のコミュニケーションのクセなどに気づいていきます。暗闇の中、他人の声や音だけを頼りに行動することから、信頼感を実感できます。



体験者の声

- 目を閉じて歩くだけで足がすくんでしまった。こんなに簡単に別世界が体験できるのはすごい。
- 声を出すこと、出しすぎないことの大切さやタイミングの難しさを感じました。
- 視覚が閉ざされた時に、仲間の声すごい安心感を与えてくれた。今までに感じたことのない感覚。
- 普段から、いかに目だけで物事をとらえているか分かりました。他の感覚を磨くことで自分がどう成長するか、みてみたいです。
- チームで行うワークでは、自分がブラインドの状態であることを経験しているので、お互いが当たり前前に助け合える感覚が気持ち良かった。
- 初めましてから少しの時間でハイタッチしていた。こんなチームっていいなって思えた。

## 何に気づく、何を学べる？

コミュニケーション

信頼関係構築

挑戦意欲

俯瞰力・想像力

チームビルディング

利他精神

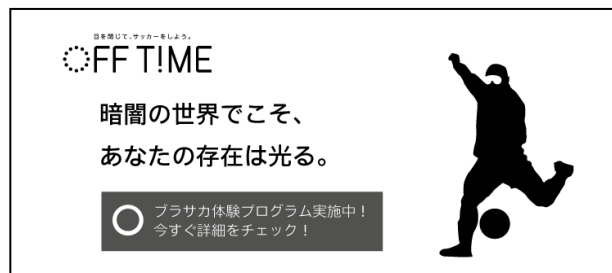
許容力

## お申し込み方法

ウェブサイト <http://www.offtime.jp/> からお申し込み下さい。日本ブラインドサッカー協会のウェブサイトからもリンクをはってあります。

会場：新宿区新宿 NPO 協働推進センター  
東京都新宿区高田馬場 4-36-12  
(JR「高田馬場駅」下車徒歩 10 分)

費用：1 回 4000 円 (税込)



## 日本ブラインドサッカー協会のダイバーシティ事業

ブラインドサッカーの楽しさを伝えることを通して、視覚障がい者と交わる具体的な機会を促進する。



## 取材の申し込み、及び本件に関するお問い合わせ

日本ブラインドサッカー協会 事務局 (担当：早川)  
E-mail: [media@b-soccer.jp](mailto:media@b-soccer.jp)  
協会ウェブサイト: <http://www.b-soccer.jp>  
住所：〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-23-7 新宿酒販会館 2 階  
電話：03-6908-8907 FAX：03-6908-8908